

非鉄金属

三芳合金工業

朝霞工場(埼玉)、6割増産へ

銅合金棒・管 設備増強、操業改善も

銅合金製品メーカーの三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏)は押出品などを製造する埼玉県新座市の朝霞工場の生産量を、2018年度をめぐり6割拡大させる。朝霞工場では注力製品である航空機向けの材料が多い。世界的な需要拡大や販路開拓による受注増に対応し、生産効率の改善や設備・システム投資を実施。生産量を増加させる。

朝霞工場では溶解炉を拡大する受注を受け、さまざまな取り組を進めている。生産効率向上へ外部のコンサルタントの協力を得ながら5S(整理・整頓・清掃・清潔・整頓)の徹底や生産管

理・整頓・清掃・清潔を整える。設備面では2017年に押出品の真直度を高める矯正器を増設。さらに今年には研磨機に半製品を自動供給する設備を導入する。また生産管理システムの更新を進めており、4月から朝霞工場での新システムを本格運用する計画となっている。萩野社長は「まずは喫緊の課題である納期対応力の強化を進めたい」と話している。